



何物語

二

5
6/2
2



何物語中



言梅ぬ程と澄る事と事かぬと其傳
あゝあゝ言一梅と記と故あり
 一農夫曰世界乃と下まりありわうなるの
とや我言曰武双紙と人きかぬ渾沌
雞子はとあり天地の氣のまじりて
 けふ時と渾沌の代とて鳥は卵のまじりて
 水がけがとて物陽と陰とて二氣かまじり
 天地を養ふとけふ此二氣乃造化よとて
 天地の理と具とてかき生れ下りて

何物語中

人間乃始なり故に天地人の三才を同一神也
と見ゆあり農夫の白世界廣く此處あり
也亦國より人ありあまなり山河を
象と云く曰く農夫と天竺日本三國と云く
道とも同じ天地乃るも同じく同じ日月
照し給ふ人も同じく念禽獸も草も木も
水も金もこれ皆事なり然ればよあ
りのくはらよなく彼よ多きものありよ少
きをど此遠るありまの玉一乃内也と
あり事あるもべつなりけず相本同一神也
理と云けりあ人あり也といふ事と云く合
息

あまのついでに神道佛道佛なるもして
人ありはれは道よりありあまの三玉乃はれ
差別なり相本天神地祇乃神國ありて
一國一理ありと其の始く生れ給ふ
神神と云く祖と云くあまの祖と云く
事と云く新より名なりありと云くあり
岩まの白神道と云くは乃は法ありと云
我々云く曰く日本此神道なり天地ひを
まあり一時の神神と云く國常と云く
それより七代と天神地祇代とすその次天照
大神より下界小使給ふよりと云くまより五

可勿語

代と地神乃曰代と申は此未と鷓鴣草ツバキ
 不合ウツク尊此清子と神氏天皇と申是入皇
 始とてまゝと今神道と申は天照太神乃
 以法なりけし清神則天神地祇乃神理と其
 まゝは乃其是志とく化生一清子故は此未
 後と申くは神道と行ひしまゝ人の清教は
 的ウツク神と傳授一清子是あ太神乃天理妙用
 乃以神神と申りしは清神未と申くは
 神道と申くは神乃人皇乃曰代は成て
 高野と百十代はとて年教二千年来は餘
 事としはとて太神乃清神道は合ウツク給ひ皇

君おもむくと法は美乃中しは聖人
 賢人一人もあまよふく太神乃神道
 と申は祝廣りく人間よまゝをまゝあま
 子なり相とそ太神くも給ひしは此未
 常ウツク園乃代と申は此なりそは神道と云はれ
 とありし其正道は傳りしと相とて途ありや
 しはとて聖賢乃祝よありは故は神理
 又相合りしと未代よるはつとく神理由
 かりて本意をくると申るあり 農史と白
 儒道と申はくはとて世は名とて作はつとく
 事は法とくはとて 家名と白是は名とて

三皇此世法あり然るも君且國のいりて天
 皇氏地皇氏人皇氏乃神代と云ひ日世此神
 代と云ふ同じく其所の末は伏犧と云ひ
 聖人が始りて天祚地祗乃神理と書ふ此
 後世は傳え給ふは伏犧乃神代十六代年扱
 一百八千歳と云ふり其後神農此神代と成
 て八代年扱六百年と云ふも相と云ふ後黃帝
 乃神代と云ふ是を三皇此神代と云ふなり
 行も皆聖人なりと云ふも由と云ふは三代乃
 るも物此制法定り乃民乃おこるも由と云
 道備も乃聖人天下と治め給ふよるて

世と云ひ世は悪人ありとも民乃始と云ふ
 此一統と云ふ年経くも聖道かおとるも
 時世は乃く堯帝と云ひ聖人を始りて古
 乃三皇此道と守りて天下と治め給ふは子
 のもこの由と云ふも是れは徳聖人ありて
 故に天下と譲り給ふと民の中より一人
 此聖人と撰り帝位とゆづるを給ふ是を
 舜帝と云ひ舜と云ふ下と云ふて天子と云
 給ふ是を夏此禹と云ひいまた代ありて
 たり今も堯舜の神代と云ひは神代神子
 ありとも聖徳あり由るは天下乃

治くは民を治むるも聖人の道なり
 帝位は天子の専ら天の理を合く
 此の謀は天子の専ら民を安んず
 未十八代年教五百年より後
 始ふ時より高の湯より聖人が生る
 して三皇の道とて天下を治む
 けは代は二十八年教六百年より後
 紂王より悪王なりして天下は
 乃ふ天子の周乃文王周より
 周公旦よりして父子三人皆聖徳なり

帝は天子の専ら天下を治むるも
 乃時孔子より聖人が生る周は
 未は代は二十八年教六百年より
 始ふ時より高の湯より聖人が生る
 して三皇の道とて天下を治む
 けは代は二十八年教六百年より
 紂王より悪王なりして天下は
 乃ふ天子の周乃文王周より
 周公旦よりして父子三人皆聖徳なり

何物言

乙

より千三百年はあまりて宋此代は程子と
賢人が起りて孔子を述べてはむろく不傳
乃乎を始く儒道と興起し終ふ其後まこと
朱喜と賢人儒書を著してはむろく不傳
今日中へは海りしはむろく是と云ふこそ
乃と云く人多く大旨を著し終と云書むは
終まぬ家と云ふなり 農夫が曰佛道と作
らむは今世にお家なればしおへあふ佛道乃
事しそしや 家なきく曰其佛道此率は
てん是も天竺と云く農且よりしはむろく不傳
まゝありしはむろく不傳はむろく天竺と云

云大國なりとしはむろく日本乃と云く開闢より後
終は聖人が起ぬよりの天祚地祚乃祚返此中
を失ひ人まゝひ常害乃代なりしはむろく
中天竺也毘羅漢と云くん云此王佛飯大王
此王子志遠太子と云く幼稚此時より才智今
まゝも起りしはむろく十九案此時修り此志あり
佛して宮中と云ふのひか起り南天竺健陀陀
此の内檀特山と云く深山は入自發と云く起り難
の告めと云ふは佛法と云く一派と云く起り
それより名と釋迦佛と云くなりしはむろく
おろく告難此修りしはむろく志乃根本は

是のひに家^か凡^た夫^らの悪^あり^とあ^らく^し善^よの^とも
 の^たは^らん^もめ^の乃^の善^よの^と便^{べん}なり^相を^佛法^を
 認^しく^人は^おし^へ給^ふよ^らの^と渴^{かつ}作^をと^事
 ざ^らり^の一^未く^よ申^く孫^ひ繁^ん昌^とを^釈迦^入滅^よ
 且^干年^よあ^まる^くけ^法創^てを^君出^へと^り
 是^後漢^乃明^帝此^世代^と少^くあり^又を^れり
 五^百年^よ及^く君^且より^日布^今と^るは^是
 人^皇三^十代^欽明^{天皇}此^世代^と及^くあり^是
 道^深と^も人^云二^人の^門佛^像と^守護^し
 く^未報^と志^すこ^も志^す一^は信^と信^と人^{あり}
 一^よ用^的天^皇此^世代^と官^を子^け法^とと^人が^う

わり^しら^り天子^を厭^はん^まし^く法^をよ^ひら
 ま^ると^万民^の依^る一^今は^繁昌^と刹^宗を^報護
 よ^らの^と此^とめ^多し^し
 一^他日^農夫^も同^く日^前日^はわ^らり^し神^道
 儒^道佛^道の^と法^とを^作や^我等^を
 日^其人^よら^の神^道と^信と^人を^神
 及^と乎^のと^この^佛道^と信^と信^と人^の佛^法
 と^貴じ^とん^とあり^法と^も天^地本^分此^理よ^合せ
 く^古此^若子^の法^一を^言と^けし^神及
 乎^一は^法と^も日^本の^神道^を若^しと^す
 志^くを^法力^を報^ふ君^且此^神道^と文字^云

河内語

分乃さそ斗よてむくゆひ給ふ人なり唯天
竺此佛法の之無昌志く貴賜崇敬し給ふ
よふゆく遊世邪欲不の義なき信僧次出よお
来志く世間此人と建とん事甚不若るる
とてなり 君吏白をとおく事ゆいと美非乃
を非と給へりやーさ佛法乃無昌とん事不
善ふ存非 我答く曰を佛法之深く經文
此理よ至て一心の工更とん事ハあの儒
道よ劣る事ハかなとん事ハこの儒
無実乃作事多く給よそ他法天理よそ
むわく人外の修りとも給よとん事

人の道よりハやーさ事なり彼法日本
よ来一は是と國出よひろめん事よ此方便
より多く他言と説式を本像法像此佛非
より免とん事ハ怪術とん事ハ或ハ金紙金紙
乃佛給ると出よとん事給くと是と給り
お一人よ奇異此伝ふとん事又或時ハ此非
乃清文中一雅系志く神託と号して
佛文と述非道佛道一味乃やうよ云くま
を教を教多し志の道とん事今よ與く志
非乃ハ文中ハ他家と禁し給ふ事非在
此威光滅とん事効日本此大事なり是とん事

下四言

一ひろのく天下よりひたり彼れ法との
 づゝ返散せん事取あかり去れがら今日
 本れ神書といふハ聖人乃後よあらざり
 中法より佛氏乃況混じて聖律乃神意
 よるひびごし其上義民急務制法とく
 けしと実あり故よけ法カレて邪法と志
 つしそげそありん事難し今四学的智中其
 儒者と撰く古聖れ志を玉握乃るとりつゝ
 左神れ神理妙用とめよ素政道の根本と
 致しとくそめ家道と具し後し事ふとつぎ
 約道と宜し儒人と選を賢智此人を奉て

ね当れ職分とを仁政とけひたり其諸乃
 宗名自然よおと法ハ家もこれ還俗し
 益民とくめかり左神乃神意新よ直
 く天下恭平よ万民安樂もあらざ
 一農文同く曰儒道ハ平のといふ佛道もいふ
 法と作るも作るなりいふやうか家もいふ
 作や 各答く曰深さくハまゝとせん我らか
 ちふ所と物またくハまゝ一 一ハ此種より
 いふく統は家方より教ハ上家人山陽道とけり
 京都よるハ儒道とをいふして聖人よ玉
 子道よ同く人る本ハ此道なりね佛乃

を是より有りて門因防乃ありより有りち
久く山陰道より越く山越と清くよふよ圓
新京都よりありて法攝の京都あり是より
ゆんとも越前山此居乃ありて著く是より
るる所ありて自ら徳をるるごとく一戒の深き
并此中よりしむ越前より外より此に有りて
ありありととありてありて乃乎ととよ曰
儒道とわろそくよゆく佛法と信よ信の金
乃乎一戒そむゆくを徳乃美状よ徳ひはし
ふがごとく一但聖人の道とすよ人乃中より
を智不能れめありて法とを中よの智れ

人の有りてくよとを徳め徳とを徳の聖賢
位よはあり奉ありて是大也よ仕一人奉ありて
自然身体よ家時へ其大也乃ありてとをあり
乎とよ宗佛道よとありて中よと一又
不通の人ありてとを道とよくゆあり
ありて大智よゆよ家時を佛美善此位と
ゆて一是と徳乃美状よ此一人一人奉あり
く其一徳れありてとを家よたとありて徳を
一徳乃よ仕一人老を徳と大也此より流の
一少者中間とよくくべく見んを一徳れ
老を徳のゆありて見ゆてととととと佛

者此智識と儒門乃是人とよくよく言ふべ
 必佛者此智識務りく見らるべし 此の佛と
 曰儒道者日此光佛法ハ月此光の如く 聖
 人天下と治め給ふ時ハ光を必照らすべし 故道正
 教入るべし 人良直なり是日の光廣大よ
 く厚く小器乃ハ虚汗乃年を以て入るべし
 此の如く又佛此人と治め給ふ其志ハ聖人や
 同し 徳位なりと自らいふ人も人とも君子天
 理を以ていふは位乃下と治め給ふ 此の佛
 者小賢此徳位ハありきこれハ佛法乃るを理
 をく凡夫乃其ありき此の如く 此の事多し 是

月乃光徳と云ふは徳明かりて人この如く
 此の上或時ハ月あり或時ハ半月あり又あり
 此の如くありき月と云ふは此の如く 徳ト大
 光此乃日光法也照り給ふなり此の如く
 小人の如く是は理也分別ありき此の如く 月
 照る 厚く来りしハ曇半ハ曇乃光ありき 照
 るりき此の如く 此の如く 佛法ハ此の如く
 此の如く 佛法ハ此の如く 佛法ハ此の如く
 曰儒道ハ此の如く 佛法ハ此の如く 佛
 法ハ此の如く 佛法ハ此の如く 佛法ハ此の如く
 佛法ハ此の如く 佛法ハ此の如く 佛法ハ此の如く
 佛法ハ此の如く 佛法ハ此の如く 佛法ハ此の如く

吾々もぬぬのたれは其味もしてうまもなるとい
ふ。酒の味とえててぬれりやうりと他
あつたりの味も味甚う申しを故に酒
とてのじへあはるる味も味もして味も
ぬれりやうれども是れに依りて天地を
治れぬあつたりの味も故に世の申しは
くも若くぬぬのたれそのあつたれを
無実此理とえてて儒道にのたれり
平法かりきあつたれとてての儒道
ぬぬの味もたれぬぬの味もたれぬぬ
是よぬぬのたれぬぬの味もたれぬぬ

かゝるはむとも振え無実の作説をぬぬ
ぬぬの味もたれぬぬの味もたれぬぬ
くも若くぬぬの味もたれぬぬの味も
らんぬぬの味もたれぬぬの味も
佛者かたれぬぬの味もたれぬぬの味も
たれぬぬの味もたれぬぬの味も
あつたりの味もたれぬぬの味も
ぬぬの味もたれぬぬの味も
くも若くぬぬの味もたれぬぬの味も
はまぬぬの味もたれぬぬの味も
たれぬぬの味もたれぬぬの味も

室乃所而止山此老名智思隱乃上人六條此
門位ささく或八帝王此沛連枝或持家の
以よりんるとよとえ給ひ高位を家以知れ
よて悔まらぬよひ異法此流とく心人
乃りや志しや人よ此事やうは是結據を
以道具る道とを根中此かひいんちうらうと
とく又小男な儒者八廉相の家道具るれ
也も根中乃りよハ正志乃黄金るらうと
りやう此事とくそくく合息一給へ
農夫白唯今此た人事うそ取人む儒乃
名貴く佛道ハりや一三事うとく作ん

亦佛者をもやう此事と人事うとくや此道は
之の時を終よ此後わあまうとくあのと存作
象答く曰前めもやぶく儒道佛道此
正邪乃りうらうとく此乃りあく志家事
うとく也やうとくとく古此賢人乃言然とく
乃くや中事やう但我未あく此此のくふ
似合きくいんんとやうハ張二道たよ聖人の
法さりとも遠そ天竺此法を創母よりハをさ
農見此法を用ひ多そ事也異風の家わ此法
と行れりんちう中乃此天子此法と行ひ
事と紀事と行ふ農夫白我くも極多士

此乃其物終と耐く形久とを佛法の事と成
極よ其りや一と作事と其いまご字ヤリと云ふ
ゆへ佛物がより不審よ存作 家養と曰儒
道乃孝とと人多分始と又孝と云書物
とよむは書此粗讀ととれを佛法と異端
虚無乃朽へかりとて賢人そ一と道法と事
と志系なり故と聖孝とと人佛法
能系と云事ととて人分をれとと
時天子も大君も我君も先祖も皆佛
法と歸依と云ひ一人なふよと云く
くくかりと行ひくそ志と人多人多と又深と

理と成とりと事ありとて佛法と云
云く及儒学者とあり是ハ佛信と云富貴人
亦社会と云くお家かと云ふと云く
とめ此福吟味と云ひのよと云く
根なり但そ人唐也此程子朱子なり
務りも多賢人なるべ深と云くわ家と
哉 農夫と白儒者とお家と宗福と云く
儒者といふと云く 我養と曰事と云く儒
道ハ水也と云く 佛法也火也と云く
と火とけとハ必然乃理なりと云く
乃水とて家と云く火と事と事わと云く

そらそらとてはと日々く水火とけさぬといひ
大なる家保りりそととく南時佛法を誓昌し
儒道とばさして用かきよとて儒道よ
し佛法と非りともさる一是と日々く儒
道ハ佛法よはさるぬなりともハ水火とけさ
ぬといふは同じ

一農史同く曰お家を素とていひはいり成
事とていひそ我答く曰是未れ事とて
異風を俗惟仍と事とていひ釈迦如来
天地中が此道よ遠ひとていひなり近りあり
徳法と園とせりそれ人よ夫婦あり事とて

お天地乃道なり夫ハ陽也て天の神婦ハ陰よ
とて地の神なり人男よとて女とて情ありを
乃の夫婦此道なると云事なり男女交
合此道なれば人間終天地の理滅と極るハ佛
也お家を素とていひ聖人乃教ハ夫婦と
人倫乃教なりと云とていひ道とてい
歌氣未れあめといひ吾徳ありとて小人乃の如
かりかく此道とて天理本分此道とていひ道
夫婦をさる事なりとていひ古に釈迦
乃とて大智ありとて徳乃悪念とていひ徳
清此徳ありとていひ徳ありとていひ夫

實は志をかくお家志く書とてわさひと
 されとも私欲ありとてよるくくして
 女とりてあそぶ事多し割人仕業し志と
 かく家難をわりの中よその道とてわくわくも
 おお家わき大元道は秀あるり但し道とて
 お家取他ありとてくうとて男とて厚の
 激乱とてと事倍祈乃患慕しとてあり
 多欲ふれ理ハ女とて男よ異なり事なり
 是中ふりたりねとてお家志く世乃とて
 とてひ乃とてあよ異風を修りとて修故あり
 志ありとてく苗附一向宗此ぶとてか家志く

とてよるわくとて杖取此流とて汲くそ戒法とて
 少家其甚難あり然ともは宗此國祖親書
 初命よとてく書とてとれめを厚ん
 聞及ね志く進バとて時を家とて心文育
 かな髪そり前書とてとてあめくくね
 事り若走る白鳥鳥とてくわねとて事
 して作や我答く曰是とて書乃物とて
 とき家本とてあり又ハは版此欲と禁とて心
 ありとて去ナりゆり事なりとて付く若此本
 わり系物とて志とて心事ハ儒道乃行へと
 とき也常此身一とて仁の道とて理よく知つと

時よそむこころを二草一本ともこころぬ事
 勿偏なりゆて故を好く徳あり物と殺
 魚を事なり一徳とも人乃血氣と事
 身骨と金少一知も老人と事よりけ
 肉より一キ事なり一人の種を天理と
 具家器をれを体とくや一草一道を
 行ふ元と良是より一徳を徳と用徳
 毒と材をど血氣保貴乃あり又臭をと食
 と事一何ぞいころんや出ん人と殺とけ
 甚し一不仁る是凡大悪人と殺と仁あり
 又料をこそありれ凡君父の事と死と付く

ころん一道理あり我命と殺家とも是又
 養此尚然なり是天理と重ト人命ところ
 事と家あり人此事あり用あり畜獸
 乃命と事なり一物なり畜獸乃や
 一命より草木と伐の行ころぬ道也かく
 此とく大なり家養よりありく小成害と
 事なりか毛より事なり進退あり
 私を仁とくありれり甚候ありん養
 と非養との分別あり養より出ん殺
 こと乃あり清く事と事といふ備
 漢と事事一を職といふことありて世

とくも人々の心くも民乃西歌を
 そこかま鳥獸と殺さるる又家食
 く父母は事ひかなどの用ふも侍も若徳よ
 是ととりく喰ふとこひてすもを
 けり一語と思ひくも侍も悪し相示其
 肉とくふ事と血氣と厚しかな吟味と
 りく志とくも時よりさひさ及さくふ
 あり一はようまた事とこのて能合守
 子悪し侍の口はくのみまされとも男
 業あひ魁乃その心くよと侍も悪し又臭為
 とくもねとつふ事と血は腹乃欲ちふと

てくもねあり一赤まのしと人束
 事一竹難くしてくもね色より一是を
 くもとを欲乃人乃ま孫とく人介
 貴くおりのまらんあめよくつね悪し
 有あり後か家人令銀と物一とくくもね
 悪し一とくもねと子行あるり侍もよ
 南村の家家殺生かよれ事と人の目り
 事と事と姿よらつと林か無慈悲なる
 母りとさるる色と色ひそく小美高れ
 物理もどめさるる事ハ毎く身心守る侍
 事多し一但美鳥と食治らねとく

是精を乃道具めく程く乃味味を
 潤てくい大酒とのこ給ふ事その心程
 とりのく評判どれど趣よ奥島とくふ
 うりはささる多味を精をたり
 農夫白か家として髪とけり年ハ
 子家子細くくや 家者く曰あれ
 色髪也精髪一給ひ一まひたり程
 也乃髪とそり給ふ心程い程深を程
 ぬえ一去るがく若且此之皇立帝之主
 之介名ると聖人賢人の髪とそり
 給ふ事とばいさささく程然バ利髪此

人とのりうと貴一とをヤ一
 孝經より身林髪廣受之父母不敬毀傷
 孝也と聖人視給ふとそり是也人若
 中ふ天誅乃孝と為そそり給ふと介り
 志くハ一毛ともみざりよもめりもくわと
 孝乃此道なりとのこす小言とそり
 但天理よりぬくと毛髪ハゆくと一
 命と毛とそり家者孝乃乃養たりとそり
 とし時れか家なせ乃と死ひ乃そめふ
 取の毛とそり給へ一髪深乃衣とそり
 与色をらわか家たりとそりして中分

乃人より貴さるりのとらぬらるる事時
代めりしひとハ云るがらかて取らる事
たかり境にあり此異風を伴斗りて四
ふらうく流移るなり 農夫の白か家元
官位よいつまき事多やましくゆへに
いざん毛むしそ作借元の心およびまき
事と好り 我善く曰南村名をまき士
亦ハ勝る民乃子と毛お家よかり初結
毛取らるごとく友位とりのまき事ハ初結
毎まき義なり大くこそんねと察するも其
位と云ぬるめりて人ハ剛く色人のよき

小をとりとくるといざんとてね又布位乃配
苗小あつた時まきとく人あくと見
えたりまきと過人乃手あむと目トそれ
人の位よはく事ハじりハまき人ハ位
も早に意とくまきと位わりまき此
曰た之人脩天爵而人爵後之と云くあり
は天爵といふが創徳乃下なり故よ三皇
乃道北行へも聖徳此人と天子とを賢
人と大臣と志く其外それく乃徳此
位よ意トてね苗乃職ハ格凡夫と庶民
とく天下と治め給ふ事ハ本とるり

と関くありきりも色と色未代はなりとて
 大唐も色は道正のりすまて日本も
 今時先為此神以味りてくかりたりか
 ら五法ごほうはおおくち南時お家此友位のこと
 くもりか心奉りつとどけし但無智不
 大か心お家へ我欲んよ位をく位とよ
 びを餘養かりしそれとてとあく心
 終ふ源乃智識もたら此欲ん更よ云信よ
 乃人難きは事なり
 一衆丈同く曰佛とハハ半のりともは方便
 ありとて心勇も自由自在じゆうざいなりてとて

乃奇物ありとて取作るはとてとて
 我答く曰物とて物とてとて信とて
 奉りと信とて奉りとよの差別とてとて
 まんずるはとて先火とて物とて厚く
 いふと信とて多かるとて水とて物とて
 法ありとてと信とてとて木像むざう給像たまはら此
 佛神ぶつじんよりえととととて信とて
 りす佛神と結構くわうくわうは彩色しよくしよくと金きんと色しよくひり
 びやくとてととととて人にん状じやう此佛
 カとて或時天よりなり或時ハ世界せかいと飛行ひやうかう
 一終ふとてととと信とてととと

物ありて其智天よまき一世界よおふ
 とさうかばけもあざ一と信トて毛
 但佛りよくと上天飛乃此奇特ありの
 るふかと時此か家其智あ乃位よありて
 我のあるも之間毛くらり亦ハ二町も二町
 毛とらぐ古此狀此上天飛乃と毛信ト
 乎あざう一又日本此弘法大師入定あされ
 多れも毛今よ世よまき一くくわく徳
 必と毛食トて白り乎南よと云とん位
 ぶへくはつとも弘法のまき大智か毛毛
 食ありといざう毛あくとれり同又

靴とあうトて石よかきされまきあきと云
 類多し一毛とん皆物とおり一草よあき
 石ありといふあゆしと成色一板又人此
 其あつら毛おとく僧山際よ洞とらう
 乎あしとさくた信ぞとん人ノ事と
 夢よあつらるといざうけ毛あざ一と云
 げ亦書物やといんあふ毛げん特とらう
 毛あざう一とらうて毛あざう一毛
 事よ事多し一能く物よ氣とけくあふ
 相んあざうと事とん智人よ同あざう
 一農丈同く日務とん仕事あざうく作や

伊勢言

二五二

我嘗く曰行矯乃所要を力と備め正しく
 道と行と行ふは志くは正徳とを無智能たれ
 のは儒道は志の深くくも行ふ所あるか
 能く理は背く事多し故に其過不及
 わやまらと行ふ事あるべし昔孔子は疾
 甚しと子路と云は孔子病といのり
 也一やと同しは是をれむ孔子は理を
 や否と同治ふ子路對く曰上下此神祇
 いの事事ありと孔子曰丘之行久との
 まふとんくあり行と云は事過あると天
 神地祇は梅く神此祐とくふ所なり聖

人賢人をわやまらなまよふは當に神
 明より明ひ給ひ時として行ふは
 事なり一徳は賢人以下此人過る事
 わさうは故にを理よるく行ふ事
 多し一但天災はあわくをまねれり
 たりものといふくあり徳とと皆人の行ふ
 を我力此行をくくも志く安んずん
 事と行ひ徳乱美念ととのにて無病を命
 とめり家藏とと清くあまらて富貴
 業花と行ふ人多し一は教皆自知く
 する事と行ふは理よるく行ふは

乞乃ん虚しくハ僧山跡より海と金銀
 とありんく昼來ありありとせむかを益
 あはまじきと金銀と海川へ捨ると同
 赤を放物と信取く初め僧山跡の中
 他法をこのとめづ〜と事〜と
 及〜ありり〜とを續補と事〜と
 昔此佛業薩乃言すれむ悪と事〜と
 はあふまじきと事〜とを當對と事〜と
 行ふ僧山跡れん〜と事〜と
 と流〜と成〜と事〜と
 人よ利ひらき金銀とび〜と

寺居とせ奇麗なり製衣院中縁
 とせあり〜と事〜と
 新〜知善此ありぬ〜と事〜と
 とせ〜と事〜と
 く〜と事〜と
 海魚汁〜と事〜と
 僧山跡と軽〜と事〜と
 行〜と事〜と
 我色清浄〜と事〜と

一農丈問く曰く佛どもして是か家名となめり
 して是か一寺の時なりけり佛よかりし
 とありひ定て居りし悪僧を殺すハ益は
 毎く作らむと信と殺して是後世に奉
 いた仕ゆらんや 教養と曰人のまをさるもい
 一さもとありまづ一さも生者必滅此
 理よふのく百年たつひよる家奉はま
 かり是の暇あり道理よくし記す人あ
 人なり唯我も人も死後此奉とおぼは
 けくふふのかり是よふのくを来佛者
 其建ひもふん丈たんとうらひんを種く

乃作言をたして釈迦乃教法なりと号し
 一人を殺すとを故は皆人々此を食は法を
 なく殺く佛と供養一も一殺報と持縁
 佛像と礼ねとれと持樂浄土とく結構あり
 必し生れ佛と其身はうのく一と佛と衆
 と貪賤乃患とのぐれを暑は難ももあ
 とよもれなくあくとして居る奉なり
 と一念よとひららめく命令と終るあり
 を死乃他念なきとてしつてあ佛と
 云とんありむをさるく信んた家志
 よく命と終るあ建ひかるとははた

乃造化を何より成るべし人乃性とする
 事ありては是れは道に人乃形神を天地に
 正養より成るは陰陽五行の道とくく
 具り天地神靈を具是て生じて故に
 天地の理と人の心と根本同一神ありて
 少も多もふ事なきそのあり然れ其更
 而此命に清濁乃不同あり亦生れれは故
 なるふ事よ公私乃差ありて善人悪
 人極これ異あり至善よ至悪と天理よ人
 半ありては善ありて人よ聖人とて是れ
 明ありて上より下へは位ありて三

皇立帝三王周公孔子かして生るがく聖神れ
 神位よりくまゆと賢人と云へ其亞あり
 臯陶伯益伊尹大公望顏回孟子程子かして
 聖よ至善賢人ありて此はくくは位
 よ至善事一人も此をこととを物
 一精能乃理ありてくくこのありてくか
 く悪と云へは行はれ故よ生るがく聖人賢
 人乃位よたは人昔も今も生まれり然れ
 根本天より受命よはありて聖人を
 凡事も用一人をたよはく凡事も
 聖賢乃道とくありはひく男と

終焉が本意なり孟子此曰死も不葬脩
 身ラテ候之所ヲテ以シテ矣ル命ヲとあり天命は長祿オウシクニ
 身ヲと修スめんと死スとすとのと天よつらふると
 云ふの玄妙ミなる不可シ不肖トシテ者我も人も人を
 と脩ムふ事此ニ又テ成ルがこと事ヲなり故ニも古
 聖ノ此道トとしくまじも身ヲ言フの言ト人
 乃リ言フ成ル信スしてたふるを道トと叶
 極ムと地ノ心ノもく已ミ事ノ心ノ其ノ位ト此道トと
 おらぬひく死スとすの命ノのなり然レバ
 天のわへ人ノ終ス命トとすて死スなり
 今ノ時ノ身ノより今ノ時ノ陰陽乃リ二氣トなりと
 陽魂ハ天ヨリ我ノ陰魂ハ泉ヨリ降ル形ノ神ハ地ニこ
 まりて朽ルとる是トも其ノ靈ハ也ナリ此ノ天ノ
 祿ト垂ルとる事ト故ニもやいと民ノもく死ス
 正レれを則テ祿トも余ヲあり業ヲ教ル乃リ礼トとなとあり
 と何レ人ノも死ス成ル佛トも命トと云フなりなりよ
 上ノ乃リ位ナリと則テなりとくも祿トなり
 今ノ時ノ佛ノ道トより由リなり今ノ時ノ儒ノ道トとあり
 何レも死ス後ニ安ル樂トとゆくと此ノ此
 祿ト位トも一トなり
 一農夫問ク曰ク我レ人ノ世トとくは乃リ肝要ナリか
 今ノ時ノもくは乃リ肝要ナリか

竹書言

竹書言

答曰曰大なる何れを善くしてしりて
 めく地はたつとてらんははうをて
 色し先をふその里は法度た名とく
 守り法くし事あるなり根を介際し志
 ぶがひと不及かるとの所要あり中庸
 とい素其位あり不致其外とあり富
 多を人ある富きよ合く其中庸は道と
 りひ奢事ゆく貧賤を家人あるを
 よるひしてその中庸とてかひ若し事
 なく事其位くよ應いあやまらな
 せやうにせよとのいなり根親よる

行と居り子とよく志し若し忠節とを
 一はよの慈悲ふく夫婦の事らひひ
 理正しくありく兄よふく志くこり
 ひ弟と憐れ智者と志くこり人老
 と教ひゆゆめと不才な人ともあれ
 と行され人となすの物をと人
 の道もくゆり人と交るなり根
 中にしとく不義無道な人とも志し
 ましと義よふく交と絶るなり
 皆これ君子を世に学んた書よ重き
 行ふ事なれば後我亦くやうなる賜士若し

之らく信じて分る職とほとめりる
要此事とるべしと行ふ

一農夫問く曰人死して葬礼とすとは事
之か家なくしても個ひとくや我答
て曰休か休事とすりさるるのれ聖人此
道よ事此礼法なまよと云事なり況
やこのごもさ大礼とや日本もを法
ありと古より貴賤は其礼法ともの
以個とす中法より天竺乃佛法来く
業の礼礼とをも佛礼とせね事なれり
と身く事り死しに葬祭此礼とすは皆

行るべし葬礼とかり事故當時凡民此
心は佛法とくくわや此礼法なり
ととひあやまり儒道よ本法此礼ありと
云事と云くは漢より一と事と云かり
農夫曰其禮法乃何なりとわらうけ給
度作 我答て曰志くは儒学乃か田あふ人
皆く志く事なれむと云よ重てとひ
給へ但答我亦と記乃福民を徳終と云よ
を法よあは事ハ叶は給養なれど大君
乃葬礼此法と云くもくもく
事と云給れよの事其死者此一族のあり

まろくそにどく秘くして狐狗犬馬
なまのあらしやうよましく哀痛の事を
馬ととれ乃中として叔孫その人氏
富よ海ひ他法行をさいうやういふも
定まらばがう一昔孔子れ弟子よ教回と
人為大賢人よとまらぬとが死一終乃門
人はと厚く葬るべしとせしむれ孔子
不可なりとふ一終ひは心も教回が賢者
を教ひしといふも教まらば一はまよふく
なり貪とく厚く葬るは理よれつと
乃此事なり是ともいふもれは礼の事

高の家れは五つはつと見くまうりあや
痛乃穢意肝要なり大首は礼法なり
也親死しれむを子と耐乃牛馬など此
死一をなすくも終山壁は控るなり
相代日をあらはやく見まはらうの程
あふ蝇とあつまりてを死骸とくも也
是を身とくは應基まらうく赤西は
ありく何ぞ引おほひを骸とく
ゆりを肉とまり是代とらつふも
あらず天理仁孝は徳あつらう人よそれ
為故なりそ天理自然は人性は

聖人葬禮此礼法とて是より下なりそのたもて
孝志と志とて其他法極神とみよ
るも孝は若くても孝は孝なり是れなり
と法礼とて是れ若くは他法とて是れまた
つとれも若くは是れ若くは是れ若くは是れ
時より是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
法として聖人此道より是れ若くは是れ若くは是れ
ありは故に礼なり若くは是れ若くは是れ若くは是れ
よ是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
才教欲なれば恩倍と若くは是れ若くは是れ若くは是れ
唯辱とるべし若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ

何物語

三三三

かよりさるるがごとく位高き所方を外なる礼
乃人かゝる儒者よ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
く葬禮なる若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
御洞ありは若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
一若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
非外 我若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
行はさく其若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
若我若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
となるは若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ
若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ若くは是れ

何物語

三二四

徳とて所要とて事祭礼此方より但
葬ふも死者此壽と用ひ祭ふも八生
志乃壽と用ふとあまは位とてその親
まゝ子富侍人なるとはあつて厚
ゆつふと親らんで子まづくはあつて
葬つてうとくまづかふ事なり然を
家貧とて人世乃名聞よりりて邪欲不
行養ふはか祭より金銀とて事
葬祭礼とて事なりとてその本
程より事かゝると金銀法
寶と行ふと云ふと云ふと云ふと云ふと

と云ふべし 農夫の白狐儒道と云ふと
志り佛道と悪しと云ひても先此祭
乃禮と云ふ事いふ人も我々も
日當時の人多ふと云ふなり佛法をりや
千年に傳へ日本も是れ佛用ひあつて先
祖教代は法は由依と云ふと今それ遠
ひなる道はあつてと云ひ終は礼を
あつてあつて事なりと云ふ志を是り
ゆつてはもそは傳へる事なりと云ふ
道は由依と云ふと云ふと云ふと云ふと
事なりと云ふと云ふと云ふと云ふと

志は少言あり故に親とまらふとば
 佛法にて衆あり畢てしれ死しと子り
 由つてありありとて佛法と受け儒法
 ともくまらひしもあがりしりしり
 かねて親とも周をいひてく自の佛法と
 のらくしりしりしりしりしりしりしり
 とも皆改めあがりしりしりしりしり
 おどしりしりしりしりしりしりしり
 考れとも程儒道に名は合くまらひしり
 尸とんとしりしりしりしりしりしり
 家法と改めく考りしりしりしりしり

くを作まらや 我答く曰るをさしりしり
 とと帝舜を大聖人父瞽瞍の大悪人なり
 然る舜父に悪ともそそなりしりしり
 三皇此道とわらひしりしりしり
 養と弟世は弟しりしりしりしり
 たりしりしりしりしりしりしり
 いふは後しりしりしりしりしり
 人となりしりしりしりしりしり
 一旦不孝はつれとも天理よそむしり
 まらふよつて畢竟は孝はしりしり
 終りのなりしりしりしりしりしり

一農夫の白儒佛の養は付常く我未のひん
 三事と一紙の書付く下れと云我
 三時りてくはりてを條目たる
 名目附りて用ふ立と立ぬと云別
 二十箇條此事
 佛法と云名と云て
 律道と云名と云て
 梵天帝釋と云名といふと云く
 天白上帝と云名といふ
 佛如来菩薩と云名といふと云く
 聖人賢人君子と云名といふと云く

釈迦と云名と云て
 孔子と云名と云て
 摩訶迦葉 舍利弗 富樓那 迦旃延
 優婆塞 阿難陀 須菩提 目犍連
 羅睺羅 阿那律
 此佛の十大弟子此名といふと云く
 顔回 閔子騫 伯牛 仲弓 宰我
 子貢 冉有 子路 子游 子夏
 此孔子の十哲弟子乃名といふ
 南無阿彌陀佛 此六字と云て
 窮理尽性至命 此六字と云て

親音おきなうと云ふ事なり

大學だいがく成なりては

法華ほっけ經きやうと云ふ事なり

四書ししよと云ふ事なり

五戒ごけいと云ふ事なり

五常ごじやうと云ふ事なり

後世ごせい成なりては

今生こんじやうと云ふ事なり

佛菩薩ぶつぼさつの像ざうと云ふ事なり

先祖せんぞ乃すなはち鬼神きしんと云ふ事なり

野山のさんの系けいと云ふ事なり

左ひだり神かみ宮みやへ

お家をおうちををたたくく佛ぶつよよのの事こととと出いくく

社やしろ人ひと成なりては

僧そう山さん師しと云ふ事なり

一族いちよく人ひとは

礼らい子したたと云ふ事なり

五ご不ふ具ぐと云ふ事なり

高たか位い大だい智ち乃すなはち僧そうと云ふ事なり

主しゅ親しんと云ふ事なり

小せう智ち乃すなはち僧そうと云ふ事なり

巫ひら乃すなはち俗ぞく人ひとと云ふ事なり

無智なるか家と傳らんより
田又米此童とかりの巻よ

よき山郊とりちあんより

無智なるか醫者と用よ

魚彼者河に穢なるの親をとり

年始米書月朔結此礼をよ

已上

[Faint bleed-through text from the reverse side]

終

何物書中

